

氏名	田中 俊明
学位の種類	修士 (看護学)
学位記番号	修士 第 190 号
学位授与年月日	平成27年3月10日
学位論文題目	精神障害の子どもをもつ父親の家族心理教育による 役割再構築

論文内容要旨

※整理番号	195	(ふりがな) 氏名	たなか としあき 田中 俊明
修士論文題目	精神障害の子どもをもつ父親の家族心理教育による役割再構築		
<p>目的： 家族心理教育を通して父親が役割を再構築していくプロセスを知ること、父親支援の一助とする</p> <p>(方法) 統合失調症の子どもをもち、家族心理教育に参加した8名の父親に対して、半構成的面接を実施した。協力を得た父親に対して、一般属性と現在の家族状況を尋ねる。その後インタビューガイドをもとにインタビューを実施する。その後、データー収集を得て、質的帰納的手順にて分析する。</p> <p>(結果) 面接内容の分析により、【子どもの存在から逃げたくて仕事に執着】【妻の危機的状況に手立てを講じる決意】【父親の役割変容が家族への関係修復につながる】【子どもの自立が家族の絆を強くする】【役割再認識を阻む父親としてのこだわり】の5つの上位カテゴリーが抽出された。</p> <p>対象者である父親は、子どもが統合失調症であることを恥などと偏った思いから、対応もできず、相談もできず、一人悩む毎日であり、【子どもの存在から逃げたくて仕事に執着】により、妻任せに仕事に逃避していた。その後、妻が子どもの対応に疲弊して、変わり果てる姿をみて、手立てを講じる決意をする【妻の危機的状況に手立てを講じる決意】。しかし、父親のプライドが時に邪魔となり相談先を阻む。しかし、やっとの思いで家族心理教育に参加する。家族心理教育を通して、病気の知識と対処のコツを知ること、子どもと向き合うようになる。【父親の役割変容が家族への関係修復につながる】また、妻への支えとなることで、絆が深まり一致した思いが【子どもの自立が家族の絆を強くする】などと、将来に向けた思いが夫婦の絆を強くすることが示唆された。しかし、父親の中には【役割再認識を阻む父親としてのこだわり】が強く、父親が理想とする思いが、子どもの障害受容が出来ないことの諦めと、孤立感を嫌いなんとか折り合いをつけたいという思いのなかで、父親の揺らぎを生じていることが示唆された。</p> <p>(考察) 精神障害の子どもをもつ父親は、統合失調症が思春期以後の発病が多いことから、父親は、子どもが、18歳以後に初めて障害の子どもをもつ親となる。また、国民衛生の動向からも父親になる平均年齢は34歳～36歳ごろであり、障害の子どもをもつ父親の年齢は、50代が最も多い現状がある。</p> <p>また、障害発達論では、中年期の父親でもあり、人生の最終課題を残した父親である。しかし、始めは受容できなかった父親も、妻が子どもの対応に疲弊する姿をみて、手立てを講じる決意をする。さらに、手立てを講じるなかで、紹介を受けて家族心理教育に参加する。参加を通して色々な知識と情報が共有でき、何よりも仲間ができたことが父親にとって一時的孤独感が回避したと考えられる。また、疲弊する妻の支えになることで、妻より期待と称賛をうけることができ、父親の自己効力の向上と、妻への信頼回復を得た。さらに、妻との関わりが増すにつれて、子どもの将来についての目標が一致する。夫婦にとっての一致は、子どもに対する共通目標が、より絆を強固になることも示唆された。しかし、父親のこだわりが強く再認識を阻み、子どもを受容できない諦めと、孤立したくなくて、なんとか折り合いをつけたい思いのなかで、父親の揺らぎがあることが明らかになった。</p> <p>(総括) 今後、受容できない父親の継続した関わりが、家族のなかでの孤立を防ぎ、父親支援には重要と考える。さらに、父親の孤立は、偏ったこだわりから受容を遅らせて生じていることも示唆できることから、知識の習得などの教育的アプローチと、同じ思いの家族との情報を共有し、エンパワメントを得られる場への提供はなどと、相互な支援が重要であることを得ることができた。</p>			
(備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)			